



有田川ダム上は水が綺麗なためメダカが多く香り高い良質のアユが掛かる



清水温泉下の谷口橋下流。盛期から後期には群れアユが多く見られる

はまで橋付近。橋の真下に堰堤があり上下により瀬、チャラ瀬、ト口場などが連続し好ポイントが続く。4WD車なら河原まで乗り入れられる



潤沢放流で開幕ダッシュ！3ヶタ釣りも夢じゃない

ありだ が わ

有田川ダム上

放流アユが中心で9月からの網入れのため釣期はダム下よりも短い。何といても解禁日のスタートダッシュが群を抜く有田川ダム上は京阪神からも近く水も清らか、釣り場も変化に富んだ人気河川だ

解説◎上西啓文

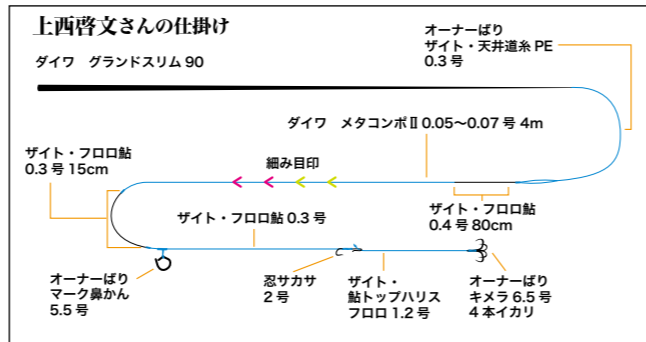


群れアユ攻略が大釣りのカギ

有田川は全長約94kmの、和歌山県下では中規模の河川。上流から下流まで荒瀬、瀬、チャラ瀬、ト口場と変化に富んでいる。途中にある二川ダムを境に上流、下流で大きく釣り場が分かれる。アユの稚魚放流は毎年7000kgでダム上流が3000kg、ダム下流が4000kg。放流される稚魚は海産、人工産だがダム上流はほとんどが人工産である。

ダム上流の釣り場は約25kmで、水質がよく京阪神から近いこともあり釣り人はけっこう多い。また日高川と並んで全国で一番早い5月1日に解禁されるためゴールデンウィークには、多くの太公望で賑わう。解禁当初は平均してダム上流のほうが型、数ともによく釣れる。しかしダム上流は9月の第2日曜日に網入れが解禁となるためダム下流より釣期が短い。サイズは解禁当初、18cm前後の良型が掛かることがあるが14~16cmがメイン。他の放流河川と同様に人工産特有の群れアユも多く見られ、この群れアユをうまく釣ることで数を稼げる。そして8月に入ると一気に良型が出るようになる。尺アユとまではいかないが23~25cmをメインに28cmぐらいまでが楽しめる。

川幅が少し狭いところもあるが9~10mのサオを充分振れる。サオの硬さ、調子としては中硬硬程度のものがよい。盛期、後期の良型には少し硬めのサオが使いやすい。イトは解禁当初は金属、複合メタル、ナイロン等の細イトがよい。盛期から後期の良型には金属、複合メタルであれば0.08



号以上の少し太め。ナイロン、フロロカーボンであれば0.2号以上のものがよい。ハリはストレイトタイプ、キツネタイプどちらでもよいが、とにかく根掛かりの多発する川である。石にハリ先が丁度入るくらいの穴が開いているからだ。それを考慮するとキツネタイプのハリを使う場合はハリスを少し硬めにして対応したい。

解禁当初は、やはり大きめの石が入っている瀬をメインに釣りたい。瀬のヒラキや瀬脇といったところが特にねらいめだ。盛期から後期の濁水時期は小石底のチャラ瀬や石が入っているト口場がよい。この時期になるとかなり群れアユが目立つようになるのでオトリを完全な泳がせ釣りになるで釣れ。増水後の引き水時は初期、盛期、後期を問わず活性が高くなるので数がねらえる。1日に3カ所ほど釣り場移動する気があれば、数をねらえる。